(C)日刊スポーツ新聞社

王様ペレ 皇帝ベッケンバウアー 英雄マラドーナ そして 新伝説

◆ロマーリオのタイトル◆ 88年ソウル五輪で7点をマークして得点王。PSVアイントホーベン（オランダ）では89～93年の5年間で3度も得点タイトルを獲得。バルセロナ（スペイン）に移った昨季も30点で1位。ブラジル時代の7回を含め得点王を12回獲得している

ファンにブラジル国旗を誇らしげに見せるロマーリオ（ローズボウルでブラジル史上共同5度目のW杯制覇を決めるPKを蹴り上げられるペレイラ監督（ロイター）

瞬間ロマーリオ

アメリカで誕生

MVP「オレのW杯」

ブラジル2トップ分断イタリアの優勢勝ち

奥寺康彦のWアシスト

決勝戦はPK戦で決着がついたが、試合運びという点では、イタリアの優勢勝ちといってもいいだろう。

明らかに劣勢でボールも支配された。しかし、決定的な場面はつくらせなかった。得点することはできなかったが、失点を0に抑えるという目標は達成したわけで、思い通りの試合運びだったといえる。

バレージの復帰が大きかった。最も危険なロマーリオを完全に抑えていた。また、ブラジル最大の武器であるベベットとのコンビを分断することにも成功した。サッキ監督の作戦も見事。試合途中でアボローニを投入、マルディーニを中央のDFから本来の左サイドに戻し、右サイドのドナドーニと左のベルティをサイドに張り付かせた。この二つで、ブラジルの攻撃パターンである両サイドバックの攻撃参加を抑えた。

ブラジルは安定したチームで、優勝するにふさわしかった。しかし、決勝戦だけ見れば、イタリアDFに見るべきものが多かった。猛暑の中、両チームの攻撃は緩れからかスピードが不足していた。特に速攻狙いのイタリアにとっては、暑さがこたえたはずだ。今大会は、屋間の試合が多く、選手には酷な大会だった。FIFAは、より良い条件で試合ができるように考えるべきだろう。（市原スーパーバイザー）

◇17日12時30分◇パサデナ・ローズボウル◇曇り◇観衆9万4194人◇主審 ブル◇線審 サラテ、ファナエイ

| | | |